

生からアドバイスをもらっているのを聞いて、「そうやればいいのか」と、とても勉強になりました」。

今後は中学生にも市進ウイングネットを使いたいと考えている。

「中学生は今、英数の個別授業が中心で、週1回ほど理科・社会の指導もしていますが、理社は映像授業に任せたい。たほうが学習効果は上がるのではと思っています。それに映像授業を受講させることで、塾に来る回数も増やせませう。それを学習習慣を身に付けさせるキッカケになるように指導したいですね」と羽生田先生は話している。

## 間違ったら もう一度映像を見る 信頼関係により 受講数が増加

有明塾(福岡県)  
高校部部长

原 恭平 先生

地域密着の塾として誕生し、38年の歴史を持つ有明塾。現在、福岡県大牟田市と熊本県荒尾市に4教室を展開している。

市進ウイングネットを高校部に導入したのは約1年前だ。それまでもライブ中心の高校部はあったが多様な進学希望に対応するため映像主体に切り替えた。カリキュラムがきちんとしてい

ることや教科書完全理解の「ベシックウイング」から難関国立を目指す「Z会の教室映像」まで、レベルに応じた指導をできることが導入の決め手となった。

高校部の生徒は約140名。1、2年生は週1、2回個別指導を受ける他、週に1回ベシックウイングを受講。3年生になると週2回以上は塾に来て、「ウイングネット本科講座」や「ベシックウイング」を受講することを勧められている。

「1、2年生は、学校の課題を塾でやっている生徒が多いですね。加えてベシックウイングを受講させることで、学校でよりよい成績がとれるようにしています」と高校部担当の原恭平先生。3年生では志望大学合格のため、学校の課題よりも、映像授業の受講を優先させている。

「学校の課題に追われすぎて受験対策ができず、3年生になってから苦労している生徒がこれまで多くいました。そうならないように、塾に来た時は映



原 恭平 高校部部长

像授業で授業の予習をし、基礎固めをきちんとするよう伝えています」(原先生)。

1、2年生の塾生の9割以上は部活動も頑張っている。中には夜9時になってやっと塾に来られるという生徒も。その点「ベシックウイング」の授業映像は20分と短く、忙しい生徒でも集中できる。「部活と勉強の両方を頑張っている生徒には、その頑張りを受験生になった時に活かせるよ、と励ましています」と原先生は話す。

併用させる個別指導で重視しているのは復習だ。ベシックウイングには練習問題があるが、原先生はそれをチェック。生徒の答えが間違っていれば、もう一度例題解説の映像を受講し直させている。

そうした指導の成果から、生徒からは「学校の授業がわかるようになった」という声が聞かれるようになった。原先生も「基礎の理解ができています。おかげで、質問もレベルの高い内容になっていると思います」と話す。

生徒のやる気が上がるとともに1人当たりの、受講数も倍増した。「この講座を受講したほうがいい」とアドバイスをすると、生徒は信頼してその講座を受講してくれる。生徒と講師の信頼関係ができていくのだ。実は、高校部は生徒の紹介で入塾した生徒がほとんど。そうした信頼関係も受講数増加の一役を担っている。

東大の学生や医学生がチューターと



有明塾 受講風景

なり、リアルタイムで質問に答えたり、相談にのってくれる「双方向質問室」も活用している。「九州では滅多に東大生に会うことはありませんが、最初は緊張していたようですが、とても刺激になるようです」と原先生。

今後は推薦入試を希望する生徒向けに「AO・公募推薦小論文」講座も使ってみたいと考えている。

「大学進学では地元志向が強く、医療系の学校を目指す生徒も多くなっています。医療系にはメデイカルコースも用意されています。市進ウイングネットの豊富なコンテンツを利用しながら、生徒の希望する進路に進めるよう指導していきたいですね。来年の春の結果に期待しています」と原先生は話している。